

Ⅲ. 委員会活動

[教学委員会]

委員長：辻郁

委員：森岡悦子 藪中良彦 佐藤睦美 橋本卓也 牧之瀬一博 井口知也

今年度より，教務委員会と学生委員会が統合され，新たに教学委員会として，教務関係と学生関係の業務を担当した．委員会組織の変更に伴い，委員会の開始が5月であった．

委員会での審議事項は表のとおりである．特記すべき事項は，教務関係で新たに導入される「第三者もよるシラバスチェック」，「定期試験結果の告知と年度末の試験」の実施方法について検討したこと，学生関係では，学生生活アンケートの自由記載欄に寄せられた意見や要望への対応について検討したことであった．

回	日時	報告及び審議事項 教務関係	報告及び審議事項 学生関係
第1回	5月8日 13:00-14:30	卒業研究 入学前教育 チューター 試験監督体制 授業見回りの実施	学生生活アンケート 自治会 人権講演会
第2回	6月3日 13:00-14:30	定期試験スケジュールと採点 見回り科目 到達度別クラス編成案	学生生活アンケート 自治会活動 オフィスアワーの設定
第3回	7月1日 13:00-14:30	入学前教育 視聴覚機器の管理方法	学園祭
第4回	8月5日 13:00-14:30	入学前教育 シラバス作成	学園祭
第5回	9月2日 13:00-14:30	定期試験 入学前教育	自治会活動
第6回	10月7日 13:00-14:30	次年度時間割と科目担当 次年度スケジュール（学年暦）	AED講習会 インターネット安全セミナー
第7回	11月4日 13:00-14:30	次年度時間割と科目担当 次年度スケジュール（学年暦） 定期試験スケジュール 入学前教育 自己点検評価	自治会活動 学生生活アンケート 防犯キャンパスネットワーク大阪 インターネット安全研修会
第8回	12月2日	基礎ゼミナール	自治会活動

	13:00-14:30	入学前教育 在校生/新入生オリエンテーション	学生生活アンケート 視聴覚機器
第9回	1月6日 13:00-14:30	基礎ゼミナール シラバス 卒業研究	インターネット安全研修会 自治会活動/サークル活動
第10回	2月3日 13:00-14:30	定期試験解答用紙持ち出し シラバス確認 入学前オリエンテーション	自治会活動
第11回	3月3日 13:00-14:30	次年度開講科目 学期末試験受験資格者 授業聴講手続き 入学前オリエンテーション	自治会活動報告 新入生歓迎会

[広報委員会]

委員長：今井 公一

委員：柴田雅朗、山田隆人、足立 一、島 雅人、工藤芳幸、境 隆弘、伊禮まり子、清田直恵、吉松秀典、白神康裕

平成26年度の活動にあたっては、昨年度同様に出張関係、オープンキャンパス、大学通信、大学案内に関する事業に区分けし、個々のリーダーを中心に活動したが、HPを抜本的に改修することとし、広報委員会本体での検討を行った。なお、それにともない大学通信はHP内の機能に統合することとした。

1. 出張関係（学外広報活動：ガイダンス、進路室への訪問）

企業ならびに高校から依頼されるガイダンスについて、教員・事務にて役割分担しながらより積極的に取り組んだ。また受験生や入学者のいる実績校、および成績上位校を考慮しながら進路室への訪問なども継続した。高校&会場ガイダンス参加校数は総計140校で、昨年実績107校の1.3倍であった。

2. オープンキャンパスの運営

参加者数10%増加を目標に、実施回数数の追加、参加しやすい時間を設定する等の新たな取り組みを行なった。PT・OT専攻は11回開催し、各種説明に加え、模擬授業の実施、祝日月曜日を利用した授業見学会の開催、8月以降は各時期に応じた入試対策を実施した。参

加者数はのべ 537 名（24%増）であった。ST 専攻科は 13 回開催し、各種説明に加え、模擬講義、現場の声を聴く会を実施した。また、毎週水曜日に夜間説明会を実施した。参加者数はのべ 74 名（4%増）であった。

3. 大学通信の発行

大学通信のあり方について再検討する中、新たに設置する HP 機能に統合することとした。

4. 大学案内の作成

本年度は、新たな HP とのリンクも視野に入れ、内容については大枠の構成は継続とし、写真など中身の一部改訂にとどめ更新を行った。

5. HP について

本年度より広報委員会本体において HP に関する議案を検討することとし、まずは低コストで簡易に記事の掲載や修正が可能な HP を目指し、抜本的な改修を行った。一部機能は教職員が自由に掲載修正することが可能となるため、運用規定を設けることも含めて新たな HP 運用を開始した。

[公開講座委員会]

委員長：吉田文

委員：佐藤秀紀 伊禮まり子

平成 26 年度は、年間テーマ「発達障がいとどう向きあうか」の下に、3 回シリーズで公開講座を実施した。

テーマの理由：

- ① 発達障がいは、社会的にみて興味関心が高いテーマの一つである
- ② 地域の小学校に本学から学生ボランティアを派遣している関係で、発達障がいをテーマにすることで地域連携を強め、地域貢献する機会となる

公開講座開催実績：

第 1 回

日 時：平成 26 年 9 月 27 日（土）14：00～15：00

会 場：大阪保健医療大学 1 号館 141 教室

テーマ：「発達障がいってなんだろう？～子どもたちの特徴～」

講 師：篠山市社会福祉法人わかたけ福社会理事長 河南 秀和（言語聴覚士）

参加費：無料

参加人数：41名

第2回

日時：平成26年11月29日（土）14：00～15：00

会場：大阪保健医療大学1号館 141教室

テーマ：「毎日の生活で子どもたちが困ること」

講師：一般社団法人大阪府作業療法士会理事、大阪市教育委員会特別支援教育専門家チームアドバイザー 辻 薫（作業療法士）

参加費：無料

参加人数：36名

第3回

日時：平成27年1月24日（土）14：00～15：00

会場：大阪保健医療大学1号館 151教室

テーマ：「青年期にかけてどう過ごしていくか」

講師：大阪保健医療大学講師 橋本 卓也（作業療法士）

参加費：無料

参加人数：31名

委員会開催回数：9回

第1回平成26年4月22日（火）～第9回平成26年2月24日（火）

審議事項

- ・ 公開講座の企画
- ・ 公開講座実施までのスケジュール調整
- ・ 会場確保、講師依頼、役割分担等の運営に関すること
- ・ 広報戦略検討と後方の実施（広報用フライヤーの作成・郵送および新聞折り込み、新聞社への掲載依頼）
- ・ 公開講座アンケート作成と結果集計
- ・ 公開講座実施後の反省

[図書委員会]

委員長：吉田文

委員：中村憲正 岩田篤

平成 26 年度の活動は、「大学図書館とは科目に関連した学習だけのためのものか?」、「学生が本に興味を持ち、図書館を有効に活用するにはどうしたらよいか?」、「経費の削減を行いながらも利用価値の高い図書館にするために?」の 3 点に取り組む内容であったと考える。そのために図書館司書の方と協力し下記の 6 つの活動に取り組んだ。

1. 図書館利用方法の周知：新入生図書館ツアー
2. 学生が利用しやすい、利用価値の高い有益な蔵書を増やす：教員・学生からの希望図書の購入
3. 学生の本への興味を喚起、居場所としての図書館、多様な感性を育む図書館：
 - ①図書委員による「おすすめ図書」の紹介
 - ②「選書ツアー」の実施により図書館で読みたい本を増やす
4. 学生の文献検索における利便性を高める：電子ジャーナルおよびインターネット検索エンジンの学生利用の拡大についての検討
5. 利用しやすい蔵書の管理：雑誌製本
6. 蔵書の効率化による経費削減：教員の意見を参考に重要性の低い雑誌を削減

活動結果：

1. 図書館利用方法の周知：新入生図書館ツアー
理学療法学専攻 平成 26 年 4 月 14 日実施
全員出席
作業療法学専攻 平成 26 年 4 月 16 日実施
1 名欠席
2. 利用価値の高い有益な蔵書を増やす：教員・学生からの希望図書の購入
教員からの希望図書（学生が読みやすい本や映像教材も含め希望を提出）
 - 6 月 希望図書のリストを各専攻でとりまとめる
 - 7 月 図書委員会で希望図書リスト確認
 - 8 月 再度希望図書を募る
 - 9 月 図書委員会で希望図書を検討11 月 3 社から相見積をとる、稟議書提出
12 月 購入

学生からの希望図書

学生が希望図書アンケートを随時提出、図書委員会で審議し購入を決定した。

3. 学生の本への興味を喚起

①図書委員による「おすすめ図書」の紹介

学生が興味を持ちやすい本、授業等にも利用できる本、未来の医療職者として是非読んで欲しい本を図書委員が選び、簡単な推薦文を添えて紹介した。

6月 山野良一：子供の最貧国・日本. 光文社.

10月 ケリー・マクゴニガル：スタンフォードの自分を変える教室. 大和書房.

12月 オリバー・サックス：妻を帽子と間違えた男. 晶文社.

3月 小泉武夫：猟師の肉は腐らない. 新潮社

②「選書ツアー」の実施

学生から1クラスにつき2名の選書係を募り、教員が書店（ジュンク堂天満橋店）に引率。好みの図書を一人5,000円以内で購入し、図書館の蔵書とする。その後、選書本を紹介する小冊子を作成し、PT・OT1～3年、ST1, 2年の学生に配布。

PT・OT 11/25（火）16：10～17：50 PT・OT 1～3年 12名

ST 11/21（金）16：10～17：50 ST 1, 2年 4名

4. 学生の文献検索における利便性を高める：

英文電子ジャーナルおよびインターネット検索エンジンの学生利用の拡大についての検討

- ・洋雑誌削減に伴い現在利用しているメディカルオンラインを学生も全文ダウンロードできる契約に変更する

5. 利用しやすい蔵書の管理：雑誌製本

- ・雑誌製本の時期を卒業研究に最も影響が少ない8月・9月に変更

6. 蔵書の効率化による経費削減：教員の意見を参考に重要性の低い雑誌を削減

- ・洋雑誌リストから全教員を対象に重要度の高い雑誌を調査。その結果、重要度の低い雑誌リストを作成し次年度から削減することとした。

[臨床実習委員会]

委員長：井上 悟

委員：前田留美子 足立一 岩田篤 牧之瀬一博 清水大輔 溝畑允康

臨床実習委員会では平成 26（2014）年度に以下の活動を実施した。

1、臨床実習に係る経費削減を目指す（前年度比 5%削減目標）

平成 25 年度と平成 26 年度の臨床実習(謝金、宿泊費)・臨床実習指導者（以下 SV）会議等に係る経費を比較すると、総額で 6%減額となった。学生一人当たりで換算すると、7%削減となり目標（前年度比 5%削減）を達成し得た。また平成 24 年度から経費総額差は 8%増額となったが、学生一人当たりで換算すると、11%の削減となっていた。

2、実習地確保

・OHSU 全専攻（OCR 含）、福田学園が外部機関に委託している全実習地情報の共有化を図った。一覧で OHSU/OCR 共通でデータを集約した。今後活用方法を検討する。

・過去の実績情報も active 情報、inactive 情報に分けて整理・再活用する。

・実習地は原則、近隣地区（近畿圏内）での委託増加を目指した。

（実習施設数 PT：209 施設 OT：172 施設 ST：151 施設 平成 27 年 3 月現在（申請中含む））

3、実習地近隣比率増加への取り組み（近畿圏内への割合増）

・PT 学専攻 平成 26 年度は 67.3%であった（平成 25 年度 58%）。当期予想の 66%以上を達成した。

・OT 学専攻 平成 26 年度は 100%であった（平成 25 年度 100%）。現在まで 100%を維持している。

・ST 専攻科 平成 26 年度は 78.0%であった（平成 25 年度 75%）。当期予想の 75.5%以上を達成した。

4、その他、継続課題

・実習地の感染制御規定への対応について：感染症の抗体検査とワクチン接種の依頼の中で、B 型肝炎のチェックを義務づける施設が増えてきた。特に PT 学専攻で、急性期病院からの要請が中心である。OT 学専攻、ST 専攻科からの報告はなかった。本年度は施設-学生ごとの個別準備対応としたが、今後増加するようならば大学全体としての対応を検討（健康相談室）する。

・SV の育成事業の検討：卒業生を SV に育成し実習地確保の幅を広げるよう努める。（例：校友会と連携し、卒業生の生涯学習のひとつとして臨床実習に関する事業援助を検討する。）

[ハラスメント委員会]

委員長：境 隆弘

委員：清田直恵（副委員長） 辻 郁 大西 環

<活動内容>

- ・平成 26 年度全新入生および入学時未受講であった理学療法学専攻新 4 年生に対して、ハラスメント講習会を実施（講師：境、大槻）。
- ・ハラスメント投書箱の有効活用化の検討（設置場所の変更）
- ・ハラスメント相談員の選出（佐藤秀紀・吉田文・前田留美子・中野尚美、敬称略）
- ・地域科学 KKJ セミナー参加 2014 年 6 月 16 日（月）東京麹町
【テーマ】
キャンパス・ハラスメント防止体制の展開と実際 3
～ 相談・対応・防止の最前線／
規程・ガイドラインの実質化／相談員・防止委員の責務 ～
- ・全学生対象“ハラスメント意識調査アンケート”実施
- ・実習指導者会議におけるハラスメントに関する発言実施（理学・作業療法学専攻のみ）
- ・本学におけるハラスメント規定およびガイドラインの改訂

[キャリアサポート委員会]

委員長：藪中良彦

委員：前田留美子（副委員長），島雅人，清水大輔

キャリアサポート委員会は、学生の就職活動およびキャリア教育の支援を行うことを、活動の主目的としている。キャリアサポート委員会では、2014年度に以下の活動を実施した。

1. 求人情報の広報

届いた求人情報を学内で閲覧できるようにまとめると共に、Web技術によるオンラインの授業サポートシステム「Moodle」に掲載し、臨床実習中に大学に来学できない時でも最終学年の学生が求人情報にアクセスできるようにした。また、就職試験が早期に行われる公務員試験に関する情報は、最終学年の学生全員に電子メールを使用して情報を送付した。

2. 求人依頼施設来校への対応

求人依頼施設の来校があった場合は、主に事務職員が対応して情報収集を行った。また、来校施設から要望があった場合は、各職種の専任教員が対応を行った。

3. 求人状況及び就職内定状況の確認

各専攻及び専攻科の就職担当教員と連携し、就職内定状況の確認を行った。

4. ベーシックマナー講習会の開催

2014年4月15日午前9時から10時30分に、NPO法人日本サービスマナー協会から3名の講師に来ていただき、理学療法学専攻・作業療法学専攻・言語聴覚専攻科の139名の新生生に対して、病院実習に必要な基本的なマナーを学ぶ「ベーシックマナー講習会」を開催した。8月及び2月に始まる病院実習に向けて、大変有効な講習会であった。

5. 就職準備セミナーの開催

5月6日に理学療法学専攻4年生に対して専任教員による「履歴書の書き方」の研修を行い、各学生が作成した履歴書を事前にNPO法人日本サービスマナー協会に送付して確認して頂いておいて、6月19日午前9時から12時10分で理学療法学専攻の就職準備セミナーを実施した。模擬面接等、学生は学ぶことが多く、学生に好評なセミナーであった。

7月12日午前9時から12時10分に言語聴覚専攻科の就職準備セミナーを、NPO法人日本サービスマナー協会講師3名をお願いして開催した。学生の満足度が高く、講師からの評価も良かった。

3月13日午前9時から12時10分に作業療法専攻の3年生の学生に対して、NPO法人日本サービスマナー協会講師3名をお招きして、就職準備セミナーを実施した。他のセミナー同様に、学生の満足度が高かった。特に模擬面接の指導が好評であった。

6. 就職活動アンケート及び就職内定状況のまとめ

就職が内定した時期に、学生にアンケートをとり、就職活動中の経験や感想をまとめ、来年度以降の就職活動指導の資料となるようまとめた。また、専攻・専攻科ごとに、各月の就職の内定人数を調査し、内定状況を調査した。

[FD 委員会]

委員長 佐藤睦美

委員 大槻桂右 橋本卓也 齋藤典昭

FD 委員会では、教員の教育内容の改善と教育力の向上を目的とし、下記の事項を検討し実施した。

1. 学生による授業評価アンケートの実施

前期・後期の最終授業終了後に、オムニバス科目を除き、専任教員と非常勤教員の担当する全科目について、学生による授業評価アンケートを実施した。マークシートは、学生自身の学習への構え・教材の利用・授業の分かりやすさ・教員の意欲等についての 5 段階評価と記述項目で構成されている。授業評価アンケートの結果は、FD 委員会から担当教員に報告し、教員は各自で授業を振り返るとともに、アンケート結果に対する応答とメッセージを記述し、それらを「担当教員から学生へのフィードバック」として、学内 Web に掲載した。前期は、保健医療学部 59 科目、言語聴覚専攻科 17 科目、計 76 科目、後期は、保健医療学部 39 科目、言語聴覚専攻科 17 科目、計 56 科目に、アンケートを実施した。

2. 授業評価アンケートのフィードバック

学生による授業評価アンケートは、2013 年度の内容を引き続き実施した。学生からの回答はマークシートおよび自由記載 (Moodle に入力) とし、回答の集計については外部委託とした。今年度は、各教員に返却する結果のレイアウトを視覚的に捉えやすいものに変更した。結果を各教員に返却し、学生へのフィードバックの提出依頼、回収を行った。フィードバックについては Moodle に掲載し、各学生が自由に閲覧できる様にした。

3. FD 講演会について

本学のカリキュラムで学ぶ内容を十分に理解するためには、自己学習が不可欠である。また、早期にこの自己学習の習慣を確立することが学力に直結し、国家試験に向けての学習にも結びつく。自己学習と講義をリンクさせる学習手法として、近年「反転学習」が注目されている。そこで、本年度は FD 講演会の講師として森 朋子先生 (関西大学教育推進部・准教授) を迎え、反転学習についての情報を教員に提供した。具体例を交えたお話しを頂き、講義の進め方など参考になる多くの情報が得られた。

4. FD 研究会 (意見交換会)

本学における授業のあり方について、出席した教員間で意見交換のできる FD 研究会を 1

回企画した。本年度は ST 専攻科の大西環講師をスピーカーに迎え、開設以来国家試験合格率 100%継続を誇る ST 専攻科の教育カリキュラムや学生への対応などについてご紹介いただいた。

FD 委員会は、今後も外部からの新情報を取り入れながら、各教員が自らの授業を振り返る機会となる企画を検討していく方針である。

[自己点検評価委員会]

委員長：井上悟

委員：佐藤秀紀 大根茂夫 足立一 椰千磨

・自己点検・評価委員会の開催内容：

第 1 回：4 月 15 日（火） 報告事項：年報・教員活動自己点検評価報告書について、審議事項：平成 27 年度大学認証評価受審に備えた、平成 26 年度自己点検評価の方法・計画について①大学の基本方針の決定について、②特に、大学独自領域の内容

第 2 回：5 月 20 日（火） 報告事項：年報・教員活動自己点検評価報告書の進捗報告、審議事項：新年度委員会組織の新設上位会議である「大学運営会議」と当委員会との役割について

第 3 回：6 月 17 日（火） 報告事項：「大学運営会議」より大学の 3 つの policy の決定報告

第 4 回：7 月 15 日（火） 報告事項：平成 27 年度大学認証評価受審の申込み完了、審議事項：大学独自領域の内容について検討（学習支援、社会貢献（国際交流含む）等）

第 5 回：9 月 30 日（火） 報告事項：平成 27 年度大学認証評価受審準備に関する日本高等教育評価機構主催説明会の報告、本委員会の上位会議である「大学運営会議」で今後大学機関別認証評価の受審方針を審議することが決定された。審議事項：大学独自領域の基準 A. 社会貢献（国際交流含む）の検討

第 6 回：10 月 21 日（火） 報告事項：「大学運営会議」より、年内に年報（過去 5 年分）に基づく自己点検評価実施決定、審議事項：基準 A. 社会連携（国際交流含む）を大学独自領域とする。

第 7 回：11 月 18 日（火） 審議事項：これまでの本学年報・教員活動自己点検評価の方法審議

第 8 回：12 月 16 日（火） 報告事項：平成 27 年度大学認証評価の現地検査の日程について、平成 27 年 10 月 26 日（月）～10 月 28 日（水）に決定した旨報告

第 9 回：1 月 20 日（火） 審議事項：大学年報に関する平成 26 年度教育研究業績報告書、平成 26 年度教員活動自己点検評価報告書の継続実施を決定した（3 月末締切）。

第10回：2月17日（火）審議事項：認証評価必要書類、全資料（自己点検評価報告書、エビデンス集（データ編）、エビデンス集（資料編））の整合性をはかるためのチェック方法について審議。

第11回：3月17日（火）前月の継続審議

・平成26年度自己点検・評価委員会の総括：

本学は開学から6年経過したことから、完成年次後の自己点検及び第三者認証評価への準備と、現在までの大学の概要・教育・研究・施設設備・地域貢献・管理運営の総括として、平成25年度の大学年報（事業報告書）を編纂し、本学HP上で公開した（9月）。さらに、過去5年間の年報資料に基づく、自己点検評価を実施し、その報告書をHP上で公表した（3月末）。

また本学は、平成27年度に日本高等教育評価機構の大学機関別認証評価の受審が決定している（実地調査日：平成27年10月26日～28日）。そのため本年度は日本高等教育評価機構平成26年度大学機関別認証評価説明会に参加し、大学運営会議および委員会にて講演要旨を伝達報告した。本委員会では基準4：自己点検評価の項目、大学独自領域である基準A：社会連携の項目内容を検討し、草案を作成した。来年度も引き続き認証評価受審準備活動を通し、社会の要請に充分に応え、教育の質の保証と教育力の向上を図っていく。

[保健管理室]

室長：藤岡重和

委員：藪中良彦 清水大輔 藤原佳子（非常勤看護師）

保健管理室は、保健管理に関する専門的業務を行い、学生の健康の保持増進をはかることを目的とし（大阪保健医療大学保健管理室規定第二条）、以下の業務を実施した。

1. 定期健康診断を実施し、要精密検査、再検査の学生には医療機関を受診するよう指導、必要に応じて保健指導を行った。
2. 健康相談室を週2回開催し、学生の身体的、精神的健康相談及び指導を実施した。
3. 基礎疾患（身体疾患、精神疾患）を有する学生の修業に関する助言を行った。
4. 体調不良及び救急措置を要する学生の対応を行った。
5. 学内の衛生環境及び感染症の予防についての指導を行った。

現在、非常勤看護師1名が週2回（火曜日と金曜日）保健管理室に勤務している。